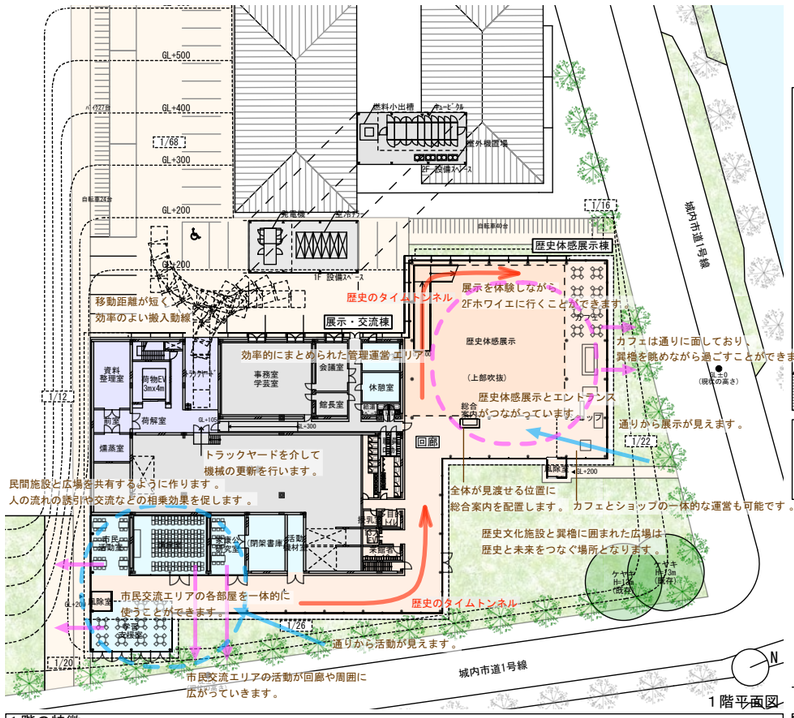
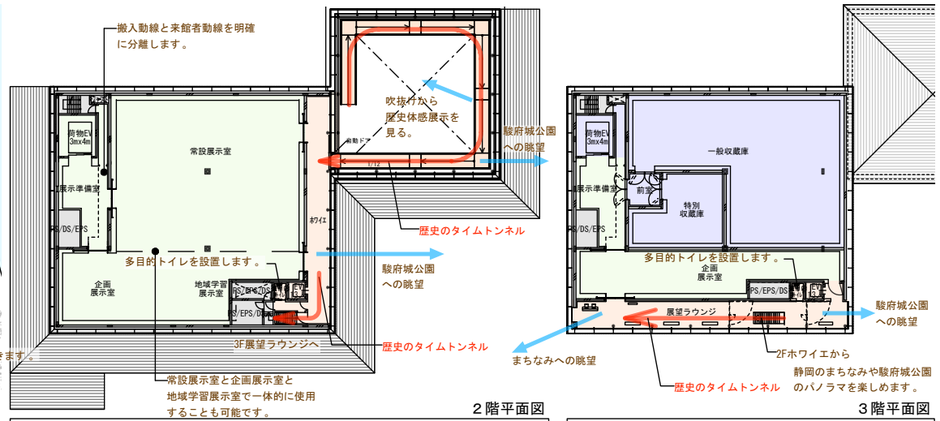
仮称静岡市歴史文化施設建設工事基本設計

静岡駅にほど近く、駿府城公園に隣接している本敷地は、周辺には石垣やお堀、巽櫓、東御門など様々な要素が歴史的景観をつくっており、雁行する石垣の間の道やお堀沿いの豊かな緑に導かれて敷地にアプローチします。
ここでは、このような江戸時代からつづく歴史的景観に配慮するとともに、街の中心地と歴史文化ゾーンとをつなぐ拠点となる提案が求められました。
私たちは展示・交流棟と歴史体感展示棟の２つのボリュームと開放的で低い回廊からなる建物を計画しました。２つのボリュームは公園や櫓の小さなスケールからまちの大きなスケールをつなぐような大きさで、壁面を分節化することで圧迫感をおさえます。
また、敷地の角に広場を持つように雁行配置とすることで、駿府城公園や巽櫓への視線の抜けをつくり、まちから駿府城公園まで人々を引き込むような街路空間となります。
広場と連続する回廊空間は雁行するまちの動線をそのまま連続させたような空間で、市民交流スペースやカフェなどが面し、まちに開かれた空間となります。回廊空間の先には大きな吹抜けのある歴史体感展示室があり、展示を見ながらスロープを上がっていき、企画展示室と常設展示室にアクセスします。そして、展示を見終えて、最上階の展望ロビーへと出ると現在の駿府城公園や静岡市のまちが広がっている風景を見ることができます。
過去から現在に至るまでの一連の展示を体験することによって駿府や静岡の歴史がより身近に感じられるよう計画しました。まちと連続した空間をつくり、現在と未来を同時に体験できるような建物を目指します。



1階平面図

1階の特徴
・展示・交流棟は、市民交流エリア、搬入エリア、管理運営エリアを設けます。
・歴史体感展示棟は、２階まで吹き抜けでつながっています。
・回廊にはエントランスやカフェ、ショップ、総合案内を設けます。
・回廊から歴史体感展示まで「歴史のタイムトンネル」をたどりながらたどりながら、人を上階まで導きます。

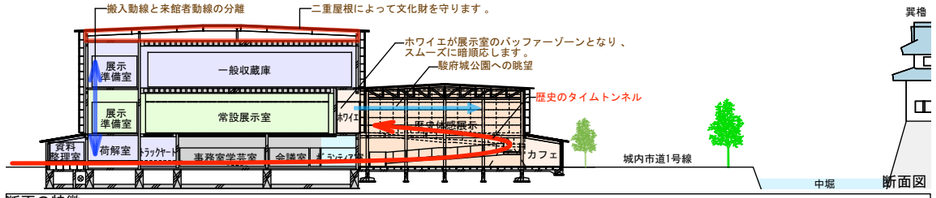


2階平面図

2階の特徴
・１階から上がってきて、ホワイエにたどり着きます。
・ホワイエからは巽櫓や駿府城公園を眺めることができます。
・常設展示室、企画展示室や、そのまま３階展望ラウンジに上がっていけます。

3階平面図

3階の特徴
・収蔵エリアと企画展示室があります。
・展望ラウンジからは静岡市のまちなみ駿府城公園のパノラマを楽しめます。



断面図

断面の特徴
・周囲との関係を考慮し、圧迫感を軽減するため、なるべく建物高さを抑えた計画とします。
・1階トラックヤードの開口高3.5m、2階展示室の天井高を4.0m、3階収蔵庫の天井高を4.5m、と設定し、その上部に防水や熱負荷低減のための二重屋根を設けて、建物の最高高さを18.68mとしています。
・展示と建物が一体となり、歴史のタイムトンネルをたどって自然に各展示室まで人を導きます。

共有の広場
民間施設と広場を共有するように作ります。共有の広場にエントランスと市民交流エリアが面しており、活動を感じることで広場の利用者を回廊へと自然と導きます。

東側からの景観
上階をセットバックさせて、圧迫感を軽減します。大きな庇空間の回廊からまちに賑わいが広がります。
敷地の角に広場を設けて、駿府城への視界を確保します。

市民交流エリア
歴史観光の拠点として、散策ツアーなどの市内回遊とつながります。
「歴史のタイムトンネル」を辿ってエントランス付近にむかいます。

1階回廊
外部には巽櫓が見え、左奥の歴史体感展示が見えます。カフェやミュージアムショップ、総合案内が広場に面しており、まちに開かれた情報交換の場となります。

1階歴史体感展示

吹抜け空間の展示を見ながら、展示室へと上がっていきます。

2階ホワイエより歴史体感展示を見る

歴史体感展示とともに巽櫓や駿府城公園の風景を見ることができます。

3階展望ラウンジ
「歴史のタイムトンネル」を体験して展望ラウンジに出ると、静岡市の風景が目の前に広がります。